

第5回報告

<p>テーマ</p>	<p>映画「人間の街～大阪・被差別部落～」を通じて同和問題を考える</p>
<p>日時</p>	<p>平成26年11月20日（木曜日）午後1時30分から午後3時30分まで</p>
<p>場所</p>	<p>塚口総合センター（旧分館）</p>
<p>参加者</p>	<p>28名</p>
<p>事業の目的</p>	<p>同和問題とは、同和地区・被差別部落と呼ばれる地域の出身であることや、その地域に居住している（いた）ことを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活で様々な差別を受けるといふ、日本固有の人権問題と言えます。結婚・就職（仕事）差別等、同和問題についての気づきを促す作品の鑑賞を通じて、同和問題の過去と現在を見つめ直すとともに、同和問題をはじめとする人権問題を正しく理解するための一助となるよう開催しました。</p>
<p>実施内容</p>	<p>同和对策審議会答申20周年を記念して、1986年に製作された作品を鑑賞しました。大阪の被差別部落を舞台に、職業差別・結婚差別など、部落差別の根強さがそこには描かれていました。</p> <p>住宅要求を目的に立ち上げた解放運動は、運動を起こしたからこそ入居することが可能となりましたがその結果、ねたみの対象となり新しい差別を生んだ事実や同和地区出身者と結婚し、その後、家族との交流が途絶えた実態が当事者から語られました。しかし、解放運動に携わったからこそ「部落は私のいのちであり、ふるさとです。」と教えられたと言い切られました。</p> <p>また、職業として屠畜に従事している人々は、“ナイフ一本で肉にしてく確かな仕事は職人芸である。”という自分の仕事に対する誇りと、子どもたちに「誰かが牛を殺さないで肉を食べることができない。」と胸を張って言えるようになってほしいという親たちの葛藤が描写されていました。</p> <p>鑑賞後、グループに分かれて意見交換会を行い、部落差別の歴史的経緯や、今日の差別の実態についてもっと知りたいという意見や、今後とも同和問題に関する学習の</p>

	場が必要であるとの意見が出されました。
参加者からの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食肉処理が生命をつなぐ大切なことであることを知った。 ・ ヘイトスピーチが横行する時代、人権について考えることは大切だと思う。 ・ 映画が少し時代に合っていなかったが、この時代の人たちがどのような運動を展開してきたか知ることができ良かった。 ・ 人権課題の原点である部落問題をテーマとしたことに意義があると思った。 ・ 自分自身、部落差別に再度向き合うことができた。 ・ 意見交換会では、全員が意見を出し合えた。 ・ 意見交換会の時間をもっと長く確保し、自分の意見に対して他の人がどう感じるかということを知りたかった。そのことが次の一歩（行動）につながると思う。 ・ 被差別者の本音が映画で見ることができ、がんばりがよくわかった。 ・ 更にこのような取り組みをしてくれることを期待している。
成果と課題	<p>同和問題は、同和地区の人たちだけの問題ではなく、全ての人に係わる重大な問題であることを改めて認識することができました。まずは、正しく知り、問題を引き起こす不合理な偏見を見抜く力を付けることが大切です。</p> <p>人権が尊重される社会の実現に向け、正しい知識と豊かな人権感覚を持って差別と向き合うことが、私たち一人ひとりの課題と言えます。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ トライやるウィーク生（市内中学2年生）5名の参加がありました。 ・ 尼崎市職員研修としても位置づけ実施しました。